

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の
被ばく線量の評価状況について

2026 年 8 月 28 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

当社は、福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の被ばく線量について、「外部被ばく線量」、「内部被ばく線量」に分けて評価し、厚生労働省に定期的に報告しています。

本日、2026 年 7 月末までの被ばく線量評価値について、厚生労働省へ報告しましたのでお知らせします。

7 月に放射線業務に従事した作業者の被ばく線量評価

- ・ 外部被ばく線量の最大値：5.96 mSv/月
- ・ 内部被ばく線量：有意な値は確認されておりません

以 上

< 添付資料 >

- ・ 被ばく線量の分布等について

被ばく線量の分布等について

1. 外部被ばくによる実効線量

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の過去3ヶ月の外部被ばく線量分布（各月別の全入域者数）を表1に示す。

表1 外部被ばく線量

区分(mSv)	R8.5月			R8.6月			R8.7月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5超え～10以下	0	18	18	0	24	24	0	2	2
1超え～5以下	9	339	348	12	408	420	6	320	326
1以下	981	6527	7508	1060	6754	7814	989	6863	7852
計	990	6884	7874	1072	7186	8258	995	7185	8180
最大(mSv)	2.4	8.4	8.4	3.0	7.0	7.0	2.90	5.96	5.96
平均(mSv)	0.04	0.19	0.18	0.06	0.24	0.21	0.05	0.16	0.15

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

2. 外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値（実効線量）

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の令和8年4月1日を始期とする5年間の累積線量分布の6月末（R8.4～R8.6）と7月末（R8.4～R8.7）を表2に、年度の累積線量分布の6月末（R8.4～R8.6）と7月末（R8.4～R8.7）を表3に示す。

表2 5年累積線量

区分(mSv)	R8.4～R8.6月 (2026.4～2026.6)			R8.4～R8.7月 (2026.4～2026.7)			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	23	23	0	42	42	0	19	19
5超え～10以下	1	175	176	4	252	256	3	77	80
1超え～5以下	39	848	887	53	1042	1095	14	194	208
1以下	1218	7238	8456	1256	7352	8608	38	114	152
計	1258	8284	9542	1313	8688	10001	55	404	459
最大(mSv)	5.2	13.8	13.8	5.60	13.8	13.8	－	－	－
平均(mSv)	0.13	0.54	0.49	0.17	0.65	0.59	－	－	－

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※H23.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

表 3 年度累積線量

区分(mSv)	R8.4～R8.6月			R8.4～R8.7月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	23	23	0	42	42	0	19	19
5超え～10以下	1	175	176	4	252	256	3	77	80
1超え～5以下	39	848	887	53	1042	1095	14	194	208
1以下	1218	7238	8456	1256	7352	8608	38	114	152
計	1258	8284	9542	1313	8688	10001	55	404	459
最大(mSv)	5. 2	13. 8	13. 8	5. 60	13. 8	13. 8	－	－	－
平均(mSv)	0. 13	0. 54	0. 49	0. 17	0. 65	0. 59	－	－	－

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

3. 特定高線量作業従事者の外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値（実効線量）

特定高線量作業従事者※ 1 の累積線量分布を表 4 に示す。

表 4 累積線量（特定高線量作業従事者）

区分(mSv)	H23.3月～H27.9月
100超え	1
75超え～100以下	191
50超え～75以下	233
20超え～50以下	267
10超え～20以下	186
5超え～10以下	129
1超え～5以下	145
1以下	51
計	1203
最大(mSv)	102. 69
平均(mSv)	36. 49

（H27. 10月より特定高線量作業従事者としての届出は実施していないため、H27. 9月までの表として記載）

※ 1 特定高線量作業従事者

電離放射線障害防止規則第 7 条の緊急被ばく限度（100mSv）が適用されるとされている作業に従事する者。具体的には、発電所に属する原子炉施設並びに蒸気タービン及びその付属設備又はその周辺の区域であって、その線量が 1 時間につき 0. 1mSv を超えるおそれのある場所において、原子炉施設若しくは使用済燃料貯蔵槽を冷却する設備の機能を維持するための作業を行うとき又は原子炉施設の故障、破損等により多量の放射性物質の放出のおそれのある場合に、これを抑制若しくは防止するための機能を維持するための作業に従事する者を指す。

なお、これまでの特定高線量作業従事者については東電社員のみが対象者である。

※ 2 特定高線量作業従事者の人数は、H23. 3月～H27. 9月の間で、過去に1度でも特定高線量作業従事者に届出したことのある者である。

※ 3 A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※ 4 H23. 3月～H27. 9月の累計の最大値（100超え）は、H25. 7月に実施したH23. 3月の内部被ばく線量を見直したことに伴うものである。

4. 等価線量

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の過去3ヶ月の等価線量（皮膚）分布を表5に、等価線量（水晶体）分布を表6に示す。

表5 皮膚

区分(mSv)	R8.5月			R8.6月			R8.7月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
500超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
300超え～500以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
250超え～300以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
200超え～250以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
150超え～200以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	0	0	0	2	2	0	0	0
5超え～10以下	0	28	28	0	42	42	0	4	4
1超え～5以下	10	409	419	12	487	499	6	340	346
1以下	980	6447	7427	1060	6655	7715	989	6841	7830
計	990	6884	7874	1072	7186	8258	995	7185	8180
最大(mSv)	2.4	9.7	9.7	3.0	10.4	10.4	2.89	6.47	6.47
平均(mSv)	0.05	0.24	0.21	0.07	0.29	0.26	0.05	0.18	0.16

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、皮膚の等価線量限度は500mSv/年（緊急被ばく限度1Sv）となっている。

※皮膚の等価線量は、70μm線量当量で評価しており、胸部または腹部の他に手などの末端部の測定を行った場合は、その最大値としている。

表6 眼の水晶体

区分(mSv)	R8.5月			R8.6月			R8.7月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
150超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5超え～10以下	0	24	24	0	29	29	0	4	4
1超え～5以下	10	354	364	12	425	437	6	340	346
1以下	980	6506	7486	1060	6732	7792	989	6841	7830
計	990	6884	7874	1072	7186	8258	995	7185	8180
最大(mSv)	2.4	9.9	9.9	3.0	7.6	7.6	2.89	6.47	6.47
平均(mSv)	0.05	0.20	0.18	0.06	0.25	0.23	0.05	0.18	0.16

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は50mSv/年かつ、100mSv/5年（緊急被ばく限度300mSv）となっている。なお、令和3年4月1日以前の眼の水晶体の等価線量限度は150mSv/年（緊急被ばく限度300mSv）である。

※眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1cm線量当量、X・γ線およびβ線の3mm線量当量とする。ただし、X・γ線およびβ線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cmまたは70μm線量当量としている。（R3.4月より）

5. 等価線量の累積値

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の6月末（R8.4～R8.6）と7月末（R8.4～R8.7）の等価線量（皮膚）の年度累積分布の比較を表7に、6月末（R8.4～R8.6）と7月末（R8.4～R8.7）の等価線量（水晶体）の年度累積分布を表8に示す。

また、令和8年4月1日を始期とする5年間の累積線量分布の6月末（R8.4～R8.6）と7月末（R8.4～R8.7）を表9に示す。

表7 皮膚

区分(mSv)	R8.4～R8.6月			R8.4～R8.7月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
500超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
300超え～500以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
250超え～300以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
200超え～250以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
150超え～200以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	58	58	0	88	88	0	30	30
5超え～10以下	1	248	249	4	308	312	3	60	63
1超え～5以下	40	876	916	54	1070	1124	14	194	208
1以下	1217	7102	8319	1255	7222	8477	38	120	158
計	1258	8284	9542	1313	8688	10001	55	404	459
最大(mSv)	5.9	19.0	19.0	6.29	19.71	19.71	－	－	－
平均(mSv)	0.14	0.67	0.60	0.17	0.78	0.70	－	－	－

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、皮膚の等価線量限度は5 0 0 mSv/年（緊急被ばく限度1 Sv）となっている。

※皮膚の等価線量は、70 μ m線量当量で評価しており、胸部または腹部の他に手などの末端部の測定を行った場合は、その最大値としている。

表8 眼の水晶体

区分(mSv)	R8.4～R8.6月			R8.4～R8.7月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
150超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	28	28	0	47	47	0	19	19
5超え～10以下	1	197	198	4	282	286	3	85	88
1超え～5以下	40	853	893	54	1056	1110	14	203	217
1以下	1217	7206	8423	1255	7303	8558	38	97	135
計	1258	8284	9542	1313	8688	10001	55	404	459
最大(mSv)	5.2	16.5	16.5	5.69	16.5	16.5	－	－	－
平均(mSv)	0.14	0.57	0.51	0.17	0.69	0.62	－	－	－

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は5 0 mSv/年かつ、1 0 0 mSv/5年（緊急被ばく限度3 0 0 mSv）となっている。

※眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1 cm 線量当量、X・ γ 線および β 線の3mm 線量当量とする。

ただし、X・ γ 線および β 線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cm または70 μ m 線量当量としている。

表 9 眼の水晶体 5年累積線量

区分(mSv)	R8.4～R8.6月 (2026.4～2026.6)			R8.4～R8.7月 (2026.4～2026.7)			増減		
	東電 社員	協力 企業	計	東電 社員	協力 企業	計	東電 社員	協力 企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	28	28	0	47	47	0	19	19
5超え～10以下	1	197	198	4	282	286	3	85	88
1超え～5以下	40	853	893	54	1056	1110	14	203	217
1以下	1217	7206	8423	1255	7303	8558	38	97	135
計	1258	8284	9542	1313	8688	10001	55	404	459
最大(mSv)	5.2	16.5	16.5	5.69	16.5	16.5	－	－	－
平均(mSv)	0.14	0.57	0.51	0.17	0.69	0.62	－	－	－

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は5 0 mSv/年かつ、1 0 0 mSv/5 年（緊急被ばく限度3 0 0 mSv）となっている。

※眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1 cm 線量当量、X・ γ 線および β 線の3mm 線量当量とする。

ただし、X・ γ 線および β 線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cm または70 μ m 線量当量としている。

以 上